

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新潟市立上山小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒950-0945
新潟市中央区女池上山1-1-28
E-mail e319kamiyama@city-niigata.ed.jp
Website <http://www.kamiyama-e.city-niigata.ed.jp/>
幼児児童生徒数 男子 374名 女子 365名 合計 739名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「生を愛し、心を養う」を学校理念として、ESDを生命尊重と捉え、ESDの実践を通して命を大切に作る心の育成を目標とした。

具体的には、環境教育、防災教育を柱に、①地域環境保全に係わる活動、②防災に係わる教育に係わる学習を行った。

① 地域環境保全に係わる活動

第5学年総合的な学習の時間において「上山の環境を守る暮らし方を考えよう」を題材として、学習を進めた。学校前幹線道路に面した地に「上山フラワーロード」が設置されていることから、まず地域環境に目を向けさせることから活動を始めた。フラワーロードに花苗を植えて、児童が自主的に育てることや、多くの学校の児童、地域の人々に花を見て楽しんでもらうための活動に取り組んだ。具体的には、当番制での水やりや雑草の手入れ、花の紹介やPRのミニ看板作り、校内児童への押し花しおりの配付によるPR活動に取り組んだ。また、活動したことを一人一人がポスター新聞にまとめ、自

身の振り返りの活動を行った。

さらに、「全校上山クリーン作戦」として、全校縦割り班ごとに学校周辺地域に出向き、地域住民と一緒に公園や通学路等のごみ拾い活動に取り組んだ。

これらの活動によって、地域の環境整備を通じて自らの住環境を大切に、ひいては他地域の環境にも関心をもつ素地を養うことができたと考える。

② 防災に係わる活動

年に4回実施する避難訓練のうち1回を「地域合同による防災訓練」とし、地震後の津波防災を想定した活動を行った。

各学級で児童の発達段階に合わせた地震・津波にかかわる防災授業を実施した後、津波を想定した校舎屋上へ避難と保護者との連携による確実な引き渡し訓練を行った。

大地震や津波から命を守るための行動を学習することやその実際を通して、命の大切さや互いに協力して防災に取り組む意識を醸成につながったと考える。



①の写真（花苗の植え付け）



①の写真（PRのためのミニ看板）



②の写真（防災授業の様子）



②の写真（津波を想定した屋上への避難）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(学級活動 学校行事)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

②3. 11 東日本大震災による津波の被害映像

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育計画の中には国際理解教育と関連づけて、社会や道徳、総合的な学習の時間と関連づけている。ゲストティチャーを有効に活用した国際理解教育の授業を実施していくよう位置づけている。また、関連する活動へはユネスコスクールとしての指導内容を定めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌に担当者を位置づけ継続的に取り組んでいる。指導計画の見直しや広報物の閲覧のための職員への回覧、児童へのチラシ配付等の活動を継続的に行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

特に内部評価については、これまでに行っていない。日々の授業が多忙な中、ユネスコスクールへ軸足を置いての活動が難しくなっている声が聞かれた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度については、意図的な活動成果を発信してはいない。学校ホームページによる各活動の紹介を随時行っているので、合わせて発信していくことを今後の課題としたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

特に連携による活動は行っていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

特に他のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成は行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールのねらいによる活動を意識しているわけではないが、互いに協力することの大切さや広い視野をもって考える機会となっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

5 年生の総合的な学習の時間における環境教育を視点とした学習活動の継続や各学年、各教科の場での国際理解教育の推進を図っていく。また、3～6 年生の外国語教科実施に伴い、国際理解の視点に立ったカリキュラムの導入を試みたい。